



私の
**なんとか
しなきゃ!**

Vol. 18

“知る”ことから始まる支援の輪

モデル **富永 愛**

TOMINAGA Ai



photo by mayumi rui

PROFILE

1982年神奈川県生まれ。15歳でモデルデビューし、世界を舞台にショーや雑誌、広告などで活躍。2010年、公益財団法人ジョイセフのイベント「MODE For Charity」の親善大使としてザンビアを訪れ、翌年に同団体アンバサダーに就任。また、2011年、国連世界食糧計画(WFP)のオフィシャルサポーターとしてエチオピアを視察し、世界の現状を広く発信し続けている。「なんとかしなきゃ!プロジェクト」著名人メンバー。

国際協力に関心を持つようになったきっかけは、私自身が一児の母になったことが大きいと思います。2010年、開発途上国の妊産婦を長年支援してきた公益財団法人ジョイセフのイベントに参加し、一年で36万人もの女性が妊娠や出産が原因で命を失っているという現実を知りました。そこで初めて、自分がどんなに恵まれた環境にいるのかに気付いたのです。

でも、母親が子どもを愛する気持ち、自分を犠牲にしても守りたいという思いは、途上国であっても日本であっても変わりません。同じ母親として彼女たちのために何かしたい。そう思い、ジョイセフが支援するザンビアのクリニックなどを視察し、自分が見て感じたことを報告会やテレビ番組などを通して日本の皆さんに伝えました。

昨年10月には、国連世界食糧計画(WFP)のオフィシャルサポーターとして、干ばつによる食糧危機で

苦しむアフリカ東部のエチオピアを訪れました。

「作物が枯れ、家畜も死んでしまった。これでは子どもを学校に行かせることができない…」

WFPの食糧配給所で出会った男性からこんな言葉を聞き、これほど状況が深刻なのかとショックでした。一人の親として自分のことに置き換えてみると辛く、胸が痛くなりました。

WFPは、そうした脆弱な環境に暮らす子どもが学校に通いやすくなるように無料で給食を提供し、教育機会の拡大を後押ししています。学校給食を通じて、貧しい地域の子どもたちすべてが飢えることなく健全に成長し、学び、貧困を克服できるように働きかけています。

支援先の学校に通う13歳のアミナちゃんに将来の夢を聞くと、「お医者さんになって自立し、この村に戻ってきてみんなの生活を良くしたい」と答えてくれました。両親は牧

畜で生計を立てていますが、干ばつの影響で苦しんでいます。こんなに小さいのに、村の将来を真剣に考えている。そんな彼女の力強い言葉に感動しました。

私にできることは、途上国で見てきた現状を日本の皆さんに発信することです。まずは“知る”。それが国際協力の大きな一歩になることを、身をもって体験したからです。国際協力に参加したいと思った時点で、その人の中で何かが変わっているはず。私もそうでした。あなたが知ったことを友達や家族にも話してほしい。そのようにして、少しずつ国際協力の輪を広げていけたらと思います。

「なんとかしなきゃ!プロジェクト」は、開発途上国の現状について知り、一人一人ができる国際協力を推進していく市民参加型プロジェクトです。ウェブサイトを中心に、さまざまな国際協力のカタチを提案していきます。なんとかしなきゃ.jp
詳しくはこちらから→